

バルブ 物流・倉庫 市場拡大に 自然冷媒系の高圧弁を

環境 DC市場の液化回収へ商機見出す



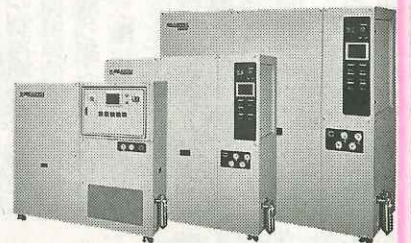
森川 毅社長

業部は関連業界の設備投資が幾分落ち着きを見せたことから微減となり、全体で108億円の着地となった」とした。

このなかで特に同社事業を二分するバルブ事業の今後の見通しについて「ユーザーサイドでは受注環境から恐らく2030年までは上向きで需要構造があるとして、我々サプライヤーに對しても十分な準備を進めるよう促している。こうした商機に当社としても受けて立つといった姿勢を持って臨む構えだ。特に国内市場においては自然冷媒であるCO₂を主軸にボール弁の高圧向けとして4・3MPaならびに23年に発売を開始したCO₂冷媒対応の高圧安全弁FVSが設計圧力で6・0MPaを示すほか開発軸としてステンレス製で12・13MPaの高圧力に對する製品の準備を進めている。但し昨今の流動的ともいえる国際情勢などを見据えと決して一本足打法のみに傾倒してはならないといった緊張も生まれる。同様に今後さらに市場が拡大するASEANを中心とした海外への需要の取り込みへも注力していきたい。

将来的には海外供給分においては現地生産などの道筋をつけ、海外に出ていく日系企業などのサポートも視野に入れている」とし国内外共に市場深耕、市場開発を積極的に行っていくという展望を語った。

こうした下地としては既に環境事業でASEANへの乗り入れを果たしている格好だ。恐らく



有機溶剤ガス回収装置「REARTH S 150 F 型」

つた観点から液化回収装置の需要を見出し、その一方で半導体製造において製造工程の開発や改善を行うため、自社内のAIサーバーをそれぞれ保有しておけるのは2030年以降と見るが当社としては「現状、幾つかの新たな冷却方式が上市され、これらがブラッシュアップされている格好だ。恐らく

の高度な研究開発能力と卓越した生産技術は全国でもトップレベルの水準であったが戦前から戦後にかけて幾多の困難と激動の時代を経て東洋時計に勤務していた多くの技術者は習得した技術をもとにそれぞれ独立し精密金属加工業の工場を操業した。このとき創業した事業所の「ものづくりの魂」が2代目・3代目へと引き継がれ、今も尚上尾市の「ものづくり」を支える大きな力となっていると記されている。

田中製作所においては創業となる田中仁一郎社長の厳父で東洋時計・計器部の部長を務めた田中健太郎氏が労働争議の実感がある。当社にお

ることで出来ることでスビッド感が格段と増したと回答。その原点には「グレース・コールドチェンパー」(二重の筒状構造)に「REARTH S 150 F 型」の最新型として次世代フッ素系溶剤ハイドロ

源流を進化させ市場に広げる逸品メーカー

引き継がれるモノづくりの源流

さいたまスーパーアリーナイベント 積極的PR活動も



田中 仁一郎社長

1947年(昭和22年)創業のアナログ温度計を主体に業務用温度計や湿度計の製造。また圧力計・その他、計測器の販売及び国内外メーカーへのOEM供給など業務用温度計の専門メーカーである田中製作所(社長

田中仁一郎氏、本社・埼玉県上尾市上尾村1343-3)は来年、いよいよ創業80年を迎える。現在まで2代に亘り引き継がれてきた技術と製品は今後、100年企業を目指す同社においてモノ補助などの助成金を有効活用し、旧式設備等に

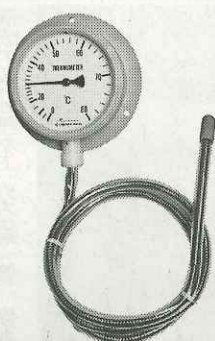
ついでに更新を積極的に行い、備えを万全のものとしていくことに加え、改めてアナログ式への選択の二軸を取り込むべく積極的なPR活動へも参加する。昨年11月にはさいたまスーパーアリーナで開催された「令和7年度彩の国ビジネスア

会である上尾商工会議所図り、備えを万全のものとしていくことに加え、改めてアナログ式への選択の二軸を取り込むべく積極的なPR活動へも参加する。昨年11月にはさいたまスーパーアリーナで開催された「令和7年度彩の国ビジネスア

の高度な研究開発能力と卓越した生産技術は全国でもトップレベルの水準であったが戦前から戦後にかけて幾多の困難と激動の時代を経て東洋時計に勤務していた多くの技術者は習得した技術をもとにそれぞれ独立し精密金属加工業の工場を操業した。このとき創業した事業所の「ものづくりの魂」が2代目・3代目へと引き継がれ、今も尚上尾市の「ものづくり」を支える大きな力となっていると記されている。

田中製作所においては創業となる田中仁一郎社長の厳父で東洋時計・計器部の部長を務めた田中健太郎氏が労働争議の実感がある。当社にお

ることで出来ることでスビッド感が格段と増したと回答。その原点には「グレース・コールドチェンパー」(二重の筒状構造)に「REARTH S 150 F 型」の最新型として次世代フッ素系溶剤ハイドロ



蒸気圧式隔測指示温度計

ては従来の需要層であったコールドチェンパー関係は既に天辺に近づいたといった状況だが、元にも及ぶ事態もあつた。1年に1品目の要領で各種補助金を申請し採択を受けて生産設備のリニューアルを行ってきた。既に5年近く及び、恐らく今年が手に入る最後の年となると思われる。特に冷媒関係はなかなか見通しが立たないものの、現行冷媒である400番台を中心に置換を行うと共に、今後需要が増すであろう自然冷媒のR290(プロパン)やR744(CO₂)。さらにはR600a(イソブタン)、R600(ブタン)などもガスメーカーを通じて取り寄せ、自然冷媒に関する補助金などを活用

し、フィールドテストを行っている段階だ。こうした事前準備を怠らず、大きな流れが生まれたときにも即応できる体制整備を行っているとした。一方、田中製作所において新たな需要層となつていく浴場用の製品として蒸気圧式隔測指示温度計がある。ラインナップとしては一般温水用と温泉等腐食性流体用の2種をラインナップしている。その特長は壁掛けのため指示部を固定して感温部を浴槽に入れるだけで直ぐ様使用が可能であること。指示部にはガラスの代わりとして、割れにくい透明樹脂を使用。また温泉や海水などの腐食性がある水質には感温部とリード線を透明軟質塩ビで被覆した仕様も別途用意している。目盛範囲は0・80度C(不均等目盛)で精度はプラスマイナスで目盛以内、但し基準調整高位にて



CO₂対応高圧安全弁FVS

い。現状は安価な類似品が流通している現状だが日本でも生産している品質で勝負を掛けた。い。さらに



上尾商工会議所サロンの会員事業者紹介

に「東洋時計株式会社」が立地したことにより、同社は時計やスピードメーター、油圧計などの計器類を製造し、そ



令和7年度「彩の国ビジネスアリーナ」

同社が出展した「令和7年度「彩の国ビジネスアリーナ」

市場向けの製品として、コアをアジアの国々で

市場向けの製品として、コアをアジアの国々で

市場向けの製品として、コアをアジアの国々で